

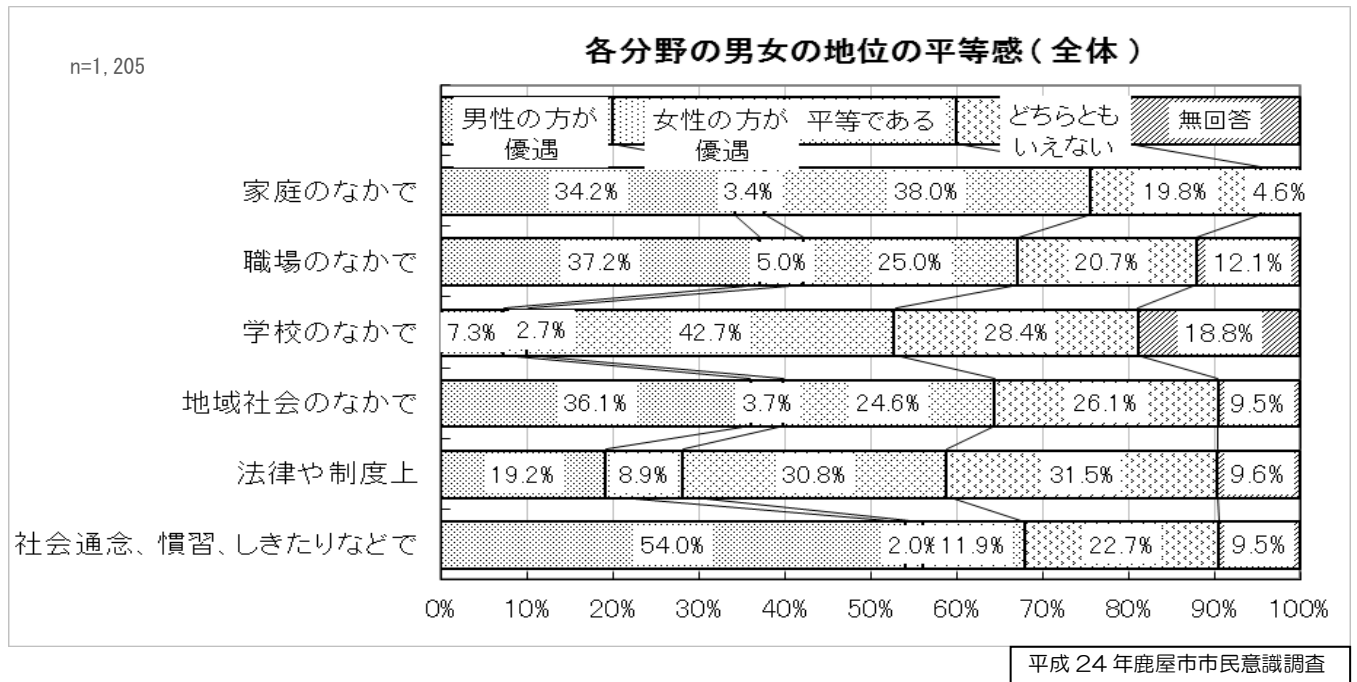


## 男女平等意識についてのアンケート結果です

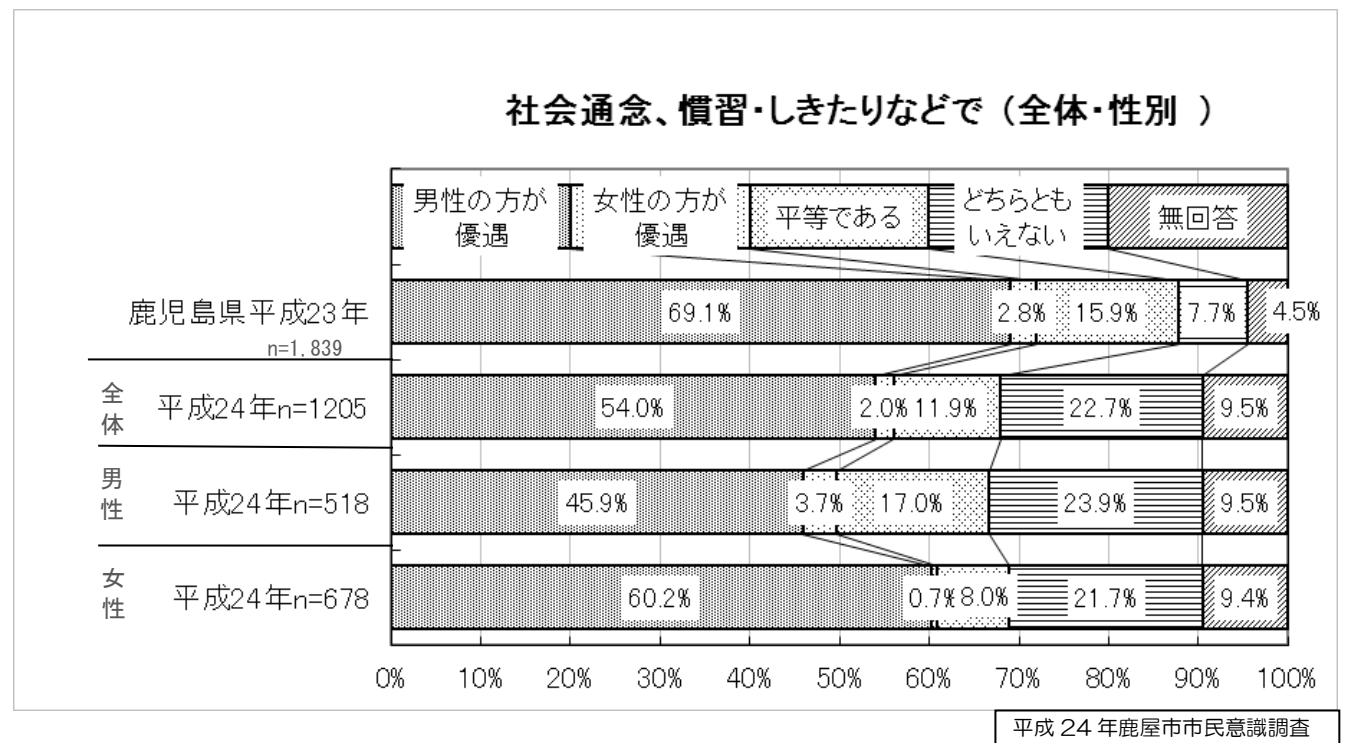


- ◆「学校のなかで」が最も平等意識が高く、「社会通念、慣習・しきたりなどで」男性の方が優遇されているが高い割合◆

様々な分野における男女の地位の平等意識をみますと、全体では、「平等である」の割合は、「学校のなかで」が最も高く、次いで「家庭のなかで」、「法律や制度上」、「職場のなかで」の順となっています。



「社会通念、慣習・しきたりなどで」を男女別にみますと「男性の方が優遇」が男女ともに最も高くなっており、これを鹿児島県の調査と比較した場合、県は、「男性の方が優遇」が 7 割弱という結果で鹿屋市の調査よりさらに高い割合となっています。

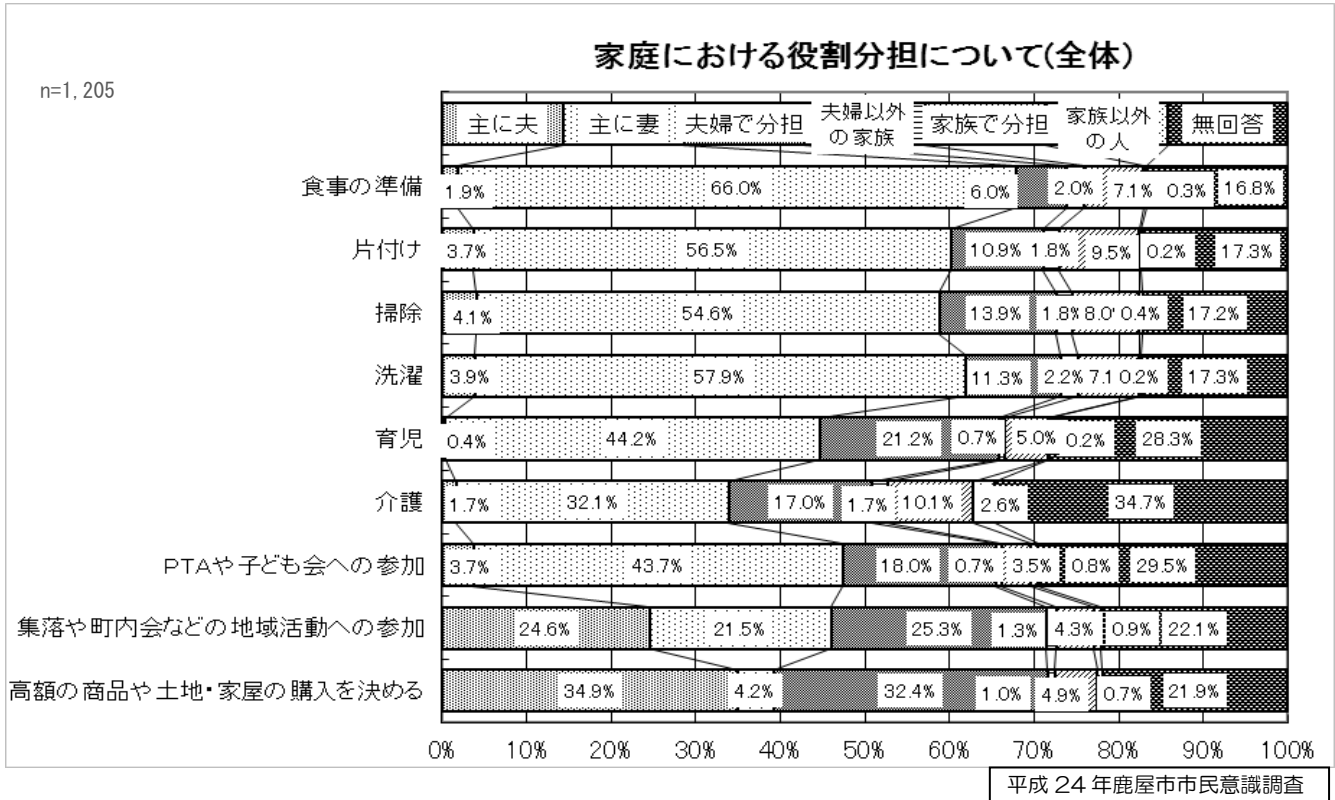


## 家庭生活についてのアンケート結果です



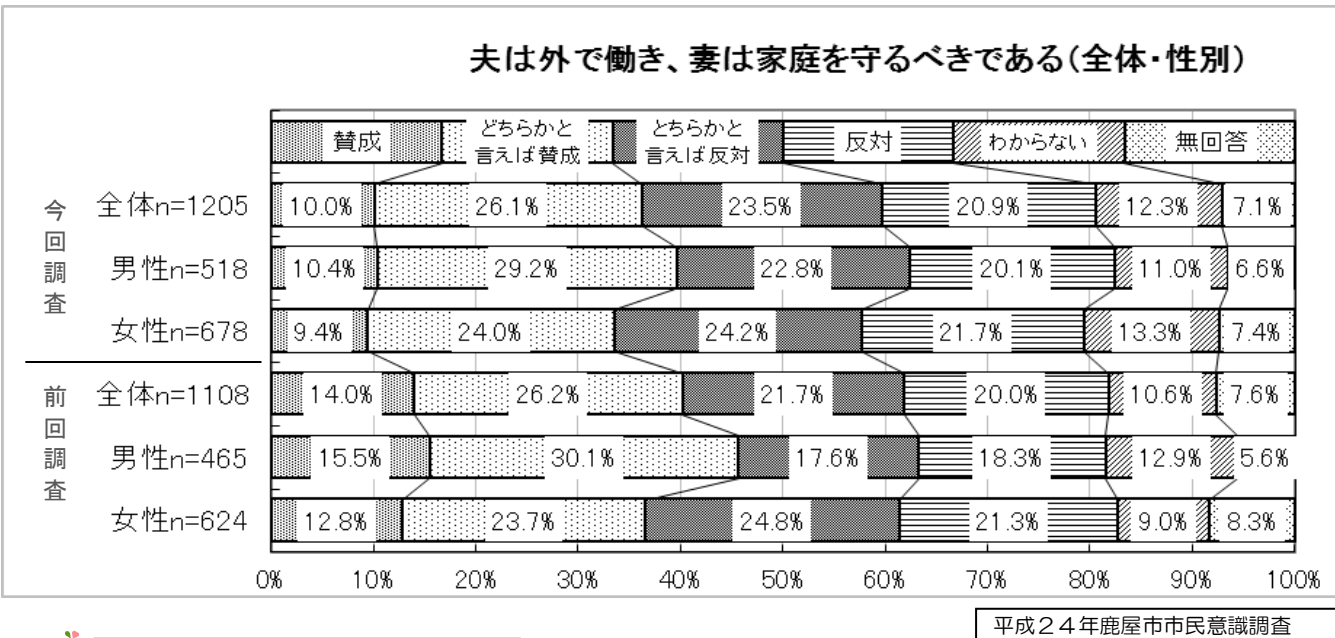
◆家庭における役割は「主に妻」がほとんどの項目について依然として高い割合◆

家庭における役割分担状況については、「食事の準備」をはじめ9項目のうち、妻より夫の割合が高いのは、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」34.9%と「集落や町内会などの地域活動への参加」24.6%の2項目となっています。



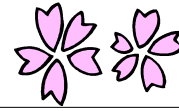
◆「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は男女ともに「反対」が「賛成」を上回る◆

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるについては、男女ともに反対の割合が高くなっています。「賛成」を前回調査(平成19年)40.2%の割合と比較すると、4.1ポイントの減少があり、このことから固定的な役割分担意識が少しずつ変化しつつあることが伺えます。





## ◆トピックス◆



# 女性の労働力率を上げることがカギ

「女性は日本の潜在力。働く女性を増やせば、日本経済がよくなる」

クリスティーヌ・ラガルド | IMF 専務理事語る

- 働く女性を増やすことで、日本の抱えている問題である多額の政府債務や深刻な労働力不足に十分対処できる。結果的に、社会全体が恩恵を受けることになる。
- 女性のリーダーを増やすことは、大事である。けん引役となつてほかの女性も引き上げるから。
- 労働時間を短くすると、生産性の面からも、良いことがとても多い。ただし、企業が不利になるような仕組みにしないことが重要である。

(NHKクローズアップ現代の「女性が日本を救う」(10月17日放送)に出演の際の発言)  
「内閣府発行 共同参画から一部掲載」

## ジェンダー・ギャップ指数(2012) 主な国の順位

順位	国名	値
1	アイスランド	0.8640
2	フィンランド	0.8451
3	ノルウェー	0.8403
4	スウェーデン	0.8159
5	アイルランド	0.7839
6	ニュージーランド	0.7805
7	デンマーク	0.7777
8	フィリピン	0.7757
9	ニカラグア	0.7697
10	スイス	0.7672
11	オランダ	0.7659
13	ドイツ	0.7629
18	英国	0.7433
21	カナダ	0.7381
22	米国	0.7373
57	フランス	0.6984
59	ロシア	0.6980
69	中国	0.6853
80	イタリア	0.6729
101	日本	0.6530



本指数は、経済分野、教育分野、政治分野及び保健分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を意味しています。

### ※各分野の日本の順位と比較

- ・ 経済参画：102位/135カ国
- ・ 教育：81位/135カ国
- ・ 政治参画：110位/135カ国
- ・ 健康：34位/135カ国

### 《 問合せ先 》

〒893-8501 鹿屋市共栄町20番1号  
 TEL：(0994) 31-1147  
 FAX：(0994) 40-3003  
 市民活動推進課(男女共同参画推進室)  
 <メールアドレス>  
 danjiyo@e-kanoya.net

世界経済フォーラム発表(平成24年10月)  
の各国における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数(日本:101位/135カ国)